

China Coal Consumption Cap

大澤正治



China Coal

Consumption Capとは、中国の石炭に帽子をかぶせるということです。帽子をかぶせる理由は、まさに地球温暖化対策

です。この政策がどういうことなのかということについて今日、話をしようと思っていますが、その一つのきっかけは、高橋先生からご紹介がありましたように石炭火力について日本が中国へ技術供与をしてきており、その供与したことが将来はどうなるか考えなければならぬことにあります。それからもう一つは、今週の月曜 13 日に北京で中国の先生方と、アジアの石炭政策の将来というワークショップを立ち上げ、この問題の重要性に気づきました。今後、ワークショップを、日本と中国を中心にアジア全体に広げることをお互い期待しました。13日は第一回であり、今後とも継続することにしました。

中国が地球温暖化のことを考えキャップをかぶせるということ、グローバルな地球温暖化対策に対することが本日の本題ですが、今までの歴史を振り返ると、中国は地球温暖化グローバルの動向に対して、独自の道を歩むことを言っていました。当時アメリカもグローバルの地球温暖化対策から外れましたが、しかしながら現在、グローバルの地球温暖化対策のために、キャップをかぶせるような政策を打つということも含めて地球温暖化対策に積極的に貢献することを中国は打ち出しました。それはアメリカと協調した考え方だと思います。オバマ大統領の地球温暖化に対す

る積極的な姿勢と、中国も考えを同じにしたということだと思います。しかしトランプ政権はご存じのようにトランプ政権は、石炭産業を支援し、そして地球温暖化なんかどうでもいいとまで言っています。このような米国の政策変更で、中国の石炭政策がキャップをかぶせることがこれからどうなるかわかりません。大いに揺れることが見込まれるわけです。

まず石炭について、中国の石炭の偉大さについて、予稿集にデータがあります。中国は世界最大の生産国であり、約五割の生産量を誇っています。そして、世界最大の輸入国でもあります。そして当然世界最大の消費国ということで、このデータを見てわかるように、世界の石炭消費の五割ということです。そして、輸出のところを見ていただきたいと思いますが、インドネシアが一位で、10位がモンゴルということです。本来生産量が多い中国は当然輸出していいはずですが、ランキングをみると、中国は実は15位ということです。11位、12位はアジアの国です。生産量は中国が世界の半分で、消費量も半分ですが、アジアも含めると石炭は世界の約七割はアジアが占めているということになります。73億の世界の人口のうち約半分がアジアですが、石炭については七割がアジアです。そのアジアにおいて中国が石炭にどうキャップをかぶせるか、石炭政策をどうするかが、今大切なところですよ。

輸出力はモンゴルが10位で、12位はベトナムで、15位は中国です。11位は、北朝鮮があります。北朝鮮が中国よりも多く輸出して

います。その輸出は当然中国が買っているわけですが、ここは石炭貿易の非常に難しいところで、マーケットだけでは答えが出ない非常に重要なところだと思います。

このように中国は、世界の半分なのです。その半分にキャップをかぶせ生産量を落とすということは、地球温暖化のためにはプラスになりますが、そううまくいくでしょうか。ここで中国が政策的に揺れると、当然アジアは日本も含めて大きな影響を受けるということです。その中国の揺れの大きな震源地はアメリカの政権交代と当然考えられます。

ところで、石炭とは何でしょうか。当然石油が液体の化石エネルギー資源、気体は天然ガス、それで固体が石炭です。直接利用もできる一次エネルギーで、いろいろな利用方法があります。直接的にも利用ができます。昔、教室で石炭ストーブを焚いていましたが、石炭という一次エネルギーを直接燃やして利用した例です。一方、石油天然ガスを直接利用することがありません。ガソリン、灯油は石油製品で、石油加工しています。つまり、石油にしても天然ガスにしてもそれは直接利用するのはすごくエネルギー量が大きすぎるし、危ないというわけです。それに対して、石炭は直接利用ができるということは、プリミティブな利用法ができるということです。プリミティブな利用法ができるということは、中国の山岳地方ではそれを毎日の食事の煮炊きなど家庭でも使っています。石炭は多様な利用ができます。その他、燃やすだけではなく、燃やした後ゴミが出ますが、これは石炭灰といい、今、循環型社会で言うと、有効利用されセメントなどにも使われています。石油天然ガスは、ごみは出ません。この石炭の利用も石炭問題です。

石炭では一般的に鉄鋼利用と石炭利用があります。石炭が利用されるのは、七割、八割がエネルギーとして石炭火力で使うというこ

とです。電力として多く使っているわけですが、電力というのは原子力発電所、水力発電所も含めたいろいろな発電所で発電された電気は全部あわせて電気として使いますから、石炭火力をやめたとき、石炭代替、石炭に代わる発電源を考えなければなりません。

それともう一つ、石炭というのは、化石エネルギー資源のなかで、一番埋蔵量が多い資源だということを頭に置いて考える必要があります。

中国では電力としてのエネルギー利用は増やしながら全体として石炭を減らし、発電用資源の石炭代替化を進めることが石炭にキャップをかぶせる政策です。

石炭にキャップをかぶせる方法は主に三つあります。一つは省エネで、エネルギー需要を減らし、石炭需要を減らすこと。二つ目は、電力について、原子力、天然ガスなどの活用で石炭代替を進めること、しかし、石炭を減らすことによって原子力を増やす問題などについて考えなければなりません。もう一つは実は石炭の一次エネルギー100%エネルギーを電力で使うとき、今はせいぜい3割から4割ぐらいしか実際のエネルギーは使えないということに注目し、その効率を上げることによって、少ない石炭でより多くのエネルギー利用を求めるといふことのこの三つの削減策、どう組み合わせることで全体の石炭の量を減らしていくか、これから中国は考えなければいけないと思います。

結論的には、アジア全体で七割ということを示しましたが、その中には北朝鮮との石炭貿易の政治的なことも含めて、石炭貿易が重要なキーワードです。石炭は石油、天然ガスと比べ運びやすく、タンカーのような船よりも簡単に、石炭船によって運びやすいメリットがあり、マーケットが作りやすい優位性があります。また、石炭の産地も世界広く分布しています。化石エネルギーの中では石

炭がもっとも市場化しやすいと言えます。その市場化と貿易についてどのように考えるべきでしょうか。

中国には、今、一帯一路の構想があります。一帯一路のなかで、石炭あるいはエネルギー全体のネットワークをどう構築するかということ、これについて、日本と一緒に中国は考えたいということが13日のワークショップのメッセージでした。石炭のネットワークとは必ずしも一帯一路のネットワークとは同じではありません。一帯一路の中には日本は入っていません。しかしながら従来の技術協力の実績を含めると石炭のネットワークについては、やはり、中国は日本と一緒に考えなければならないことがたくさんあるということを中国が考えるであろうと私は考えています。